

工業会全国定期総会報告

2025年度 全国定期総会・福井支部総会報告

電気工学S45卒業 支部長 前側 宏
機械工学S52卒業 坂井地区長 柿本 精一

日時：2025年6月14日(土) 13:00～17:00

会場：三国オーシャンリゾート&ホテル

出席者：来賓4名

学長 内木 宏延 様、
理事・副学長 米沢 晋 様、
理事(非常勤) 坪田 光司 様、
工学部長 永井 二郎 様
講師 江川 誠一 様
会員 畑 孝幸 副理事長他73名
合計79名

今年の定期総会は福井支部の坂井・奥越地区が担当させていただきました。

ようこそ三国へと意気込んでいましたが、あいにくの梅雨空でご不便をおかけしたかと思えます。また、先日6月2日(月)に堀照夫理事長がお亡くなりになったこともあり、今回の定期総会は例年とは雰囲気異なる「亡き堀理事長を偲ぶ総会」でもありました。

○福井支部総会

司会を水野美奈氏(情報H8、坂井地区)が務め、開会の辞を柿本精一坂井地区長が宣言、その後、前側宏 福井支部長の挨拶がありました。

議長には、前側宏福井支部長を選出、議事に入りました。

1. 2024(令和6)年度 事業報告、決算報告および監査報告について
2. 2025(令和7)年度 事業計画および予算案について

以上について審議、満場の賛同を頂き議決しました。

閉会の辞を柿本精一坂井地区長が宣言、福井支部総会を閉会しました。

○全国定期総会

福井支部総会の後、来賓と県外会員に入場いただき

全国定期総会が開催されました。

総会に先立ち、この1年の間に亡くなられた物故会員のご冥福を祈り黙祷を捧げました。

司会を水野美奈氏(情報H8、坂井地区)が務め、開会の辞を、柿本精一氏(機械S52、坂井地区長)が宣言、その後、畑孝幸副理事長の挨拶があり、多数の会員に出席いただいたことへの感謝の弁と工業会の今後の活性化に向けての弁を述べました。

続いて、内木宏延福井大学長からご祝辞を頂戴しました。内木学長は病理学がご専門で、新しく学長として本年4月から就任されました。キャッチフレーズは「社会共創大学を目指して」です。

議長には、前側宏福井支部長を選出、議事に入りました。

1. 2024年度 事業報告について
2. 2024年度 一般会計および特別会計・基本金決算報告、監査報告について
3. 2025年度 事業計画について
4. 2025年度 支部事業補助費について
5. 2025年度 一般会計収支予算案について
6. 全国定期総会、各支部総会について
7. 報告事項について

以上について審議、満場の賛同をいただき議決しました。

報告事項の中で、絹谷信博本部事務局長より後任の理事長職について本部役員や支部役員とも協議の結果、畑孝幸現副理事長が新理事長職に就任すること報告されました。会場も満場の拍手に包まれました。



畑 新理事長よりご挨拶

続いて、永井二郎工学部長より「工学部100周年記念事業の概要報告と御礼および工学部の近況報告」についてお話をいただきました。

閉会の辞を柿本精一坂井地区長が宣言、全国定期総

会を閉会しました。

○記念講演会

講師に福井大学国際地域学部 江川誠一先生を迎え、「北陸新幹線敦賀延伸の経済効果と社会的効果について」と題して講演をいただきました。



江川先生の講演

- ・開業1年目の新幹線効果は確実に生じたものの、大きく期待していた方にとってはそこまではならなかった。その分、2年目以降の着実な効果持続に繋がっていくとともに、アフターコロナの観光客の行動変容を捉え、稼ぐ観光地づくりを目指すべき。
- ・インバウンドは伸び代が大きい。先進地域に学び、様々なチャレンジをしながら、受入体制を整えていくべき。
- ・今後、観光、産業、生活の各分野にて、関東シフトがますます進むと思われる。交流先、移動先、取引先等として関東の特性を踏まえた対策を一層進めることが求められる。一方で、関西や中京とのつながりも引き続き重要。
- ・小浜・京都ルートはステージが変わった。息の長い取り組みを覚悟しつつ、新たな戦略を打つ必要がある。

○記念写真撮影

撮影した記念写真は、福井大学工業会ホームページよりダウンロード取得してください。



○懇親会

司会を柴田勝博氏(機械H7、坂井地区)が務め、開会の辞は柿本精一坂井地区長が宣言、米沢晋理事・副学長に祝辞を頂戴し、岡田孝一奥越地区長の献杯で懇親会がスタートしました。

今回の総会は「亡き堀理事長を偲ぶ総会」でもあり、

懇親会も堀理事長の思い出を偲びながら歓談の時間を過ごされました。

・テーブルスピーチ

各支部長の中から代表4名の方に堀理事長を偲んだお話を頂戴しました。

・余興(火の太鼓)

今回の全国定期総会を記念して「火の太鼓保存会」による「火の太鼓」を披露いただきました。

「火の太鼓」は、坂井市の指定無形民俗文化財に指定されている三国町に伝わる芸能です。

航海安全を祈願して、神事に打ち鳴らしたものを起源とすると伝えられています。江戸時代初期に襲った大嵐の時に、網元たちが火を焚いて三日三晩大太鼓をたたき続けたところ、大荒れがおさまり平静が戻ったという伝説にちなみます。

「火の太鼓」の特徴としては、太鼓を台の上に載せて叩くいわゆる“鏡打ち”という手法が使われ、また、通常の打ち方とは逆の打者が太鼓の左に位置して打つ「左打ち」と称す、他の太鼓芸能には類の少ない手法が採られています。

福井大学工業会も故 堀理事長から畑新理事長に代わって新たな船出となりますが、この力強い「火の太鼓」効果で、荒れもなく順風満帆に進んで行くことでしょう。

きっと亡き堀理事長もにっこりとほほ笑んでくれていると思います。



火の太鼓保存会のみなさま

次年度の定期総会担当支部である近畿支部長の太谷寛治氏に中締め言葉を頂戴し、今回近畿支部から参加いただいた山川勇郎氏(繊維染料S44、近畿支部)と北川裕也氏(電子H7、近畿支部)も加わって、一丁締めにて懇親会を締めいただきました。

閉会の辞を柿本精一坂井地区長が宣言、来年度の総会での再開を誓い解散しました。

最後に、今回の定期総会の開催にあたり、各支部と事務局の皆様、実行委員の皆様には応援、ご支援をいただけたことで盛大に開催することが出来ました。感謝と共に厚くお礼申し上げます。

(坂井地区会計 機械工学H7卒業 柴田勝博 記)